**講道館級位(少年)について**

**講道館級位(少年)の基準を設け、少年の稽古や試合において安全を確保し、指導の効率化を 図り、講道館柔道修行の奨励を目的とする。**

（級位認定の委任）  
1講道館は、講道館級位（少年）の認定を講道館段位推薦委託団体（以下段位推薦委託団体）に委任する。

（級位証書）  
2級位証書は講道館長名で発行し、段位推薦委託団体に委託する。

（委任された団体の業務）  
3(1)昇級候補者の審議・認定、級位証書の授与  
(2)少年の修行者数（2月末日時点）の報告

（級位の対象）  
4級位は、七級から一級までとし、学年は小学1年生から小学6年生とする。

（昇級の基準）  
5基準は「講道館 級位（少年）基準」（別表）によるものとする。

（昇級候補者の審議）  
6修行者の柔道精神の修得、柔道に関する理解および術科体得の程度について評定する。  
品性不良の者、柔道精神に反する言動のある者は他の事情の如何にかかわらず昇級することはできない。

（昇級時の費用）  
7委任された団体の定めるところとする。

講道館級位（少年）基準

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 七級 | 六級 | 五級 | 四級 | 三級 | 二級 | 一級 |
| 昇級できる最少学年 | 小学1年 | 小学1年 | 小学2年 | 小学2年 | 小学3年 | 小学4年 | 小学5年 |
| 最少修行月数 | 6ヵ月 | 3ヵ月 | 3ヵ月 | 3ヵ月 | 3ヵ月 | 3ヵ月 | 3ヵ月 |
| 基礎知識 | ・講道館柔道の歴史　・礼法　・柔道衣　・所作（立つ動作など） | | | | | | |
| 基本動作 | ・姿勢　・組み方　・進退動作　・体捌き　・崩し　・作り　・掛け | | | | | | |
| 受身 | 安全に受身ができる | | 移動して安全に受身ができる | | 乱取や試合のどんな場面においても安全に受身ができる | | |
| 投技・固技 | ・出足払 ・膝車 ・大腰  ・袈裟固 ・崩袈裟固  など | | ・釣込腰 ・送足払 ・支釣込足 ・大内刈 ・背負投 ・大外刈  ・上四方固　 ・横四方固  など | | ・小内刈 ・小外刈 ・体落 ・内股 ・払腰  ・崩上四方固 ・肩固  ・投技の連絡変化 ・抑込技の連絡変化  など | | ・縦四方固  ・各種技の連絡変化  など |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 無級 | 七級 | 六級 | 五級 | 四級 | 三級 | 二級 | 一級 |
| 帯の色 | 白色 | 水色 | | 黄色 | オレンジ色 | 緑色 | 紫色 | 茶色 |

※当該級において 他の修行生と技能に大きく差がある場合には裁量により 適切な級位に編入させることができる

昇段についての質問、自分の昇段年月日を知りたい方、段証書を紛失された方は講道館審議部へお問い合わせください。  
[お問い合わせ](http://kodokanjudoinstitute.org/contact/)

**六段候補者以上の試合得点の取り扱いについて**

2019年4月1日以降に開催される全国、地区高段者大会等に関して、以下の通り取り扱う。

（高段者大会等の取り扱いについて）  
1(1)地区高段者大会参加者の「参加奨励点」について  
講道館主催の全国高段者大会参加者同様、参加点0.25点が与えられる。  
（補足）  
すべての参加者に、大会成績にかかわらず参加点が与えられる。  
(2)全国柔道整復師高段者大会について  
「年間において、さらに全国的規模で行われる高段者大会の成績を１試合のみ計上することができる」自由参加の大会として、七段、六段候補者の試合得点とすることができる。  
(3)日本ベテランズ国際柔道大会（地区ベテランズ柔道大会を含む）について  
「得点は、講道館、全柔連及び講道館段位推薦委託団体が主催又は後援する大会のものに限る」大会として、七段、六段候補者の試合得点に年間1.0点を計上することができる。  
（補足）  
トーナメント形式の試合で、試合回数、段位に違いがあるため、対戦相手の段位により、試合の得点（内規4ｐ、8（3）参照）を算出して計上することができる（※団体戦を除く）。得点が、年間1.0点を越えた場合は、切り捨てられる。

（八段候補者「古式の形」試験について）  
2受験者は、七段昇段後、２年毎の形試験を随時、複数回の受験することができる。  
（補足）  
七段昇段後、地区柔道連盟（連合会・協会）の推薦を受けて、「古式の形」試験を受験し、評定を受けることができる。  
受験者は、講道館夏期講習会、講道館形講習会等を受講することが望ましい。